

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		認知症と言っても本人の言葉として出てくる中には、必ず自宅のこと、家族のこと、友達のことを、不満そうに言っている、声に出てくる事は、気になり不安の原因にもなるので、現在の場所での交流も大切にしながら、以前の思い出や、自宅のある地域との交流で支援できるように取り組みたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		家族、友人、など訪問しやすいように、出来る限り家族と話し合う努力をしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている		夏祭りなど計画して、一緒に楽しめるよう取り組んでいる。昔懐かしい盆踊りを喜ぶ笑顔が嬉しいと思っている。市内のグループホームが連携して合同で出来るように区分別会議などで検討できるようにしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		中学生や地域ボランティアさんの協力を得ながら、交流の場面を増やしたいと思っている。来年度も継続で協力いただく予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいる。県内に評価機関が数箇所あるので、料金なども相談しながらだが必要性は理解している。改善内容は職員間で検討し改善に取り組んでいる。		まだ歩き始めたばかりで躓きや、踏み出せないこともあるが、利用者や家族が安心して、心を許していただけるように、出来るだけ伝え関わって、行きたいと考えている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、市福祉課担当に相談したり会議の場で話し合い、頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力している。		外部評価の内容については会議参加者全員に配り、改善内容などは説明、意見を頂いている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	出来るだけ市に出かける機会を作り担当者の声を聞くように努力している。市の担当からは何時でもアドバイス頂きありがたく思っている。		利用者とも一緒に市役所福祉課に出かけ顔見知りの職員などから声かけしていただいている。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な時には市の支援専門員さんに相談し話を聴いていただき指導を受けているが、実際利用された方はない。		魚沼市の社会福祉協議会に専門員の方がいるので必要時はアドバイスいただいている。社会福祉協議会とは出来る範囲で協力し合っている。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については言葉の一つ、行動の一つから何処で発生するかは、相手方の気持ちでも左右されることがあるので、市、県などの主催する研修を受け、日々の生活の中で虐待につながらないように注意して関わっている。		職員全員が注意して関わっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族には説明しながら出来る限り納得いただくようにしているが、本人の不安を取り除くということは、入居後の関わりの中で、1つずつ納得いただくようにしている。	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの声は出来るだけ聴き入れ、気持ちよく生活ができるようにしている。	入居者家族から、本人の声を聞かせて頂いたり、包括支援センターの方から一緒に聞いていただくなどしている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月居室担当、管理者から1ヶ月間の様子や金銭管理の報告を実施している。お手紙や写真で様子がわかるよう工夫している。	面会時には最近の様子や、本人が話していたことなど、出来るだけ伝えられるようにしている
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の場を利用したり、面会時には必ず声かけをして困ったことなどないか聞くようにしている。また契約説明時には市や県の窓口の紹介も実施している。	開設から1年半を過ぎ、本人やご家族との信頼関係や気心が通うようになり、思いや希望など話していただいている。又今後もより気軽に声かけしていただけるようにしていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善計画書を作成し、提案された内容については社長、管理者で検討し、職員と一緒に改善している。	
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時などは、時間関係なく管理者に連絡したり、看護師に連絡、応援できる体制になっている。通常は出来る範囲で勤務日程を調整し職員の確保に努めている。	急な休み希望があっても、何とか半日は応援していただけるように調整している。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から今日までは離職者もなく安定してたが、今月いっぱいまで常勤職員が2名、夜勤職員1名が個人都合で退職する。新規職員も決まったので、入居者には不安を与えないよう実習などで関わっていたい。	若い職員が決まったので、利用者の気持ちは今よりも、更に若返れるのではないかと思うが、職員が変わったことを感じさせないように、気配り、気遣いしていきたいと思っている。
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	県や市から指導いただいた内容を含め必要時には見直している。	新しく職員として採用される方には、就業規則などと同じく説明し、周知していただく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や管理者研修など計画的に研修を受けられるように配慮し実施している。その他研修についても案内などは全職員に連絡、希望があれば勤務調整なども検討している。		職員個人の意識の問題でもあるが、本人が希望する内容で同意できる内容の研修については協力的にバックアップしている。(金銭面など含め)
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	魚沼地域全体のグループホーム連絡会に参加し年1回ではあるが地域のGH職員の交流と研修の場に希望者からは参加してもらっている。今年度は10/3(金)に看取りについて実践を踏まえた研修会と意見交換が予定されている。		この交流を活かして見学や意見交流ができるように進めて行きたい。区分別ケア会議や、地域内で連携を取り、各GH間で合同の行事など計画できないかなどを話し合っている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	出来る限り話し合いをし、声を聞くようにすることで職員間の問題など把握するように努め、ストレスが発散できるように声かけなどしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	そわんとしてどうしても必要な研修はお願いして協力していただくようにしている。そのほか本人が日々努力しているところは、できるだけ見逃さないように把握に努めている。又向上心のある方は出来る範囲で協力を惜しまないようにしている。		そわんとしての考え方は、あくまでも研修について県や市から紹介のあったものは職員に周知の上、本人の自主研修として考えている。希望があれば勤務調整や参加費など出来る範囲で協力もする。休日利用の研修も費用面では相談に乗っている。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅からの紹介時から本人やケアマネ、家族の話を聴き、安心して入居していただけるように話し合っている。入居後も出来るだけ本人の様子を見守り、心配そうな様子の時などは声かけ、聴き手になり、安心を感じていただくように職員全員で努力している。		自分の立場で考えて、家から離れ、家族から離れて暮らしていく入居者の気持ちを考え聞き役を第一として関わっていく。一緒に行動することで可能なことは叶えられるように家族と協力している。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人のことや、家族のどうしたら良いのが等の不安を聞くように勧め、話し合いを重ね、そわんを利用したり話をする事で、少しでも安心していただけるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心できること、早く馴染めること、家族が少し肩の荷を降ろせることなどが支援できたらと思っている。	本人、家族がそわんで笑顔で話し合っ、家族が安心して「またくるよ」と言って帰れる支援を継続したい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居宅のケアマネや家族と話し合いながら、どうしてもこれだけはと言う所を盛り込んで、その他は生活に必要な支援を行いながら本人が、出来るだけ早く馴染めるように工夫している。	本人の思いが一つでも実行できるようにサービスを工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物を教えていただいたり、味付けを見ていただいたり、時にはお部屋に遊びに行ったりしている。	散歩に出では、花の名前を覚えてもらったり、地域の様子を覚えてもらったり、自宅の草取りに行ったり、畑を手伝ったりしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が入院した時など、出来るだけ本人が退院時に、そわんに帰ってから、不安にならない様に出来る範囲で、職員と他の利用者で様子を見に行っている。	困ったことをそわんだけで抱え込まないで、家族からも話を聞いていただくように声かけしている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅時不穏で関係が悪化していた方もあるが、現在では本人の気分のよいときに、面会できるように家族に声かけしたりすることで、笑顔で面会していただいている。	これからは終末期に向けて本人家族と話し合いをし、お互いが安心して関わられたり関わったり出来るような関係を作りたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ自宅へ出かけたり、地域の馴染みの方から面会していただいたりしている。本人しかわからないお店でも繰り返し聞いていっているうちに、現在もあることがわかったりするので同行で食事に行ったりしている。敬老会なども地域の方と同席してもらっている。	今後も、本人が行ってみたいところであれば、出来る範囲で同行する。以前はパーマ屋さんから出張していただいたりしていたが、馴染みのところへ行くようにしている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	依存性が強い利用者に対して、注意する利用者があったり、その会話を聞きたくない利用者があったり、妄想のわからない話で、文句を言われたりしながら時には、穏やかに笑顔で関わられていることもある。	どうしても対立したりする時は、食事の時間を変更したりテーブルに座っても顔が半分くらい見えないようにするなどその時々で対応している。その時の問題を投げかけている方からじっくりと話を聴き無理のないかわりにつなげていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その方の状況に応じて出来る範囲で声をかけたり、包括支援センターと連携し様子の見守りはしていきたいと思っている。		その方の地域に出かけ見かけたときなどは声をかけている。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩に出かけたい方、自宅へ行きたい方、畑をしたい方、本人が話してくれたり、訴えてくる希望にそえるように日々の生活の中で聞こえてくる会話なども耳を傾けて把握できるようにしている。		楽しく過ごした時の写真など撮影して記念に残している。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に聞きながら情報を集めたり、入居前のケアマネに教えていただいたり、面会に来ていただいた友人から教えてもらったりと努力している。		センター方式を利用できるように市が主催してくれる研修など積極的に参加できるようにする。(11月には市主催の2回目の研修会が実施予定されている。)
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間では毎日申し送りの中で変化など把握していることを共有できるようにしている。		朝のバイタルや見守りの中で変化や、発言があれば職員内で共有し、関わられるように更に努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	そわんでは、本人の思いを家族に伝え友人とのつながりや、地域とのつながりが途切れないように日々生活の支援をしている。サービス計画も職員にも確認を取りながら作成しているが今後更にセンター方式の勉強会に参加したりしながら職員全員でモニタリングをしながらそれを生かしたサービス計画にしたい。		ケアマネと介護職員が一体となりこの生活がより楽しく安心できるプランができるかを検討する。
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の支援で対応できないと判断したときには、家族や関係者と話し合っってプランの変更をしている。		必要に応じて変更見直しをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過記録を記入し、本人の思いや気づきなど全職員が共有できるようにしている。		記録の正確性と簡素化を検討し職員が記録に時間をとられすぎないように工夫をしたいと思う。
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能はないができる範囲で協力できるように努めている。		職員一人ひとりがその時々々の状況で、社長、管理者と話し合って支援できるように検討している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、協力をお願いしている。		退去して自宅へ帰るにも決まっていたが、本人が忘れてしまい帰りたくて、夕食後一人で外に出たときに協力頂いている。(このときは職員が見つけ何とか保護が出来る。) )
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスと言っても有料サービスは負担が大きくなるので社会福祉協議会や、地域行事、色々なところへ声かけし、楽しく安心して参加できるところへ同行している。		他の事業者(GH)や社会福祉協議会などと連携し、ボランティア協力も得ながら出かけられるようにしている。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	金銭的な相談や、どうしても在宅へ戻りたいなど包括支援センターを交えて本人家族と話し合いをしている。		必要な内容があるときは充分支援いただいている。
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医受診は無料だが、それ以外への受診は原則的に家族が対応または1回の受診に付き3000円負担いただくことを説明し、希望があれば協力医への主治医の変更も可能であることを説明している。現在は内科についてはほぼ協力医への受診となっており適切に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほんだ病院へ相談できるように家族には説明している。職員も受診の際などに相談している。		季節などの変化時には必要があれば家族に相談し、専門医の受診も実施していただいている。定期的に受診している方も居るので協力受診して必要あれば家族にも報告している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	9月で看護師が退職、職員、ケアマネが協力医療機関及び各病院でのカンファレンスなどに参加して入居者に安心を提供できるように支援していく。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院になった場合は不安にならない様に職員と利用者ができる限り様子を見に出かけている。退院時などは家族と同行したりカンファレンスには、ケアマネ、職員が参加したりして安心いただけるようにしている。		そわんとしての考えは出来るだけ早期退院を希望している。(入院が長引くと不安が大きくなり、一時的だけでなく認知の変化が大きいと思っている。)
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在方針をまとめ早い時期に家族と個別に話し合っており、進めたいと考えている。		職員の中では話し合ったり研修に参加したりしながら出来る限り対応できるように日ごろから意識している。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には出来る事出来ないことの説明、又医療依存度の高い方は対応できないことをせつめいしている。職員間では話し合いをしているが、実際の経験はないため事例報告や研修会で話を聴いたり、意見交換をする中で、心の準備をして行きたいと思っている。		看取り期に入る前に日頃から家族、職員、本人で話し合いを実施するように検討している。家族会などでは声かけしているが直接話し合っている家族はまだ少ない。いつ来るか予測のつかない時もあると思われるので、面会時には家族と出来るだけ話しをしていく。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の思いだけでは、自宅に戻って一人暮らしを「さあ、どうぞ」とはできかねるため、同居していない家族、包括支援センターなどと十分相談し、その家族の中にキーパーソンとなる、支援者をお願いし、両者が分かり合ったうえで、安心して在宅に戻れるように支援している。		新規入居時にはたいていの家族が、困っているための入居が多く、何とかして入居させたいと思うため、本人との話し合いの仲では、あたらず触らざるのことがあるため、その後の生活において反動が出ないようにじっくり、ゆっくり安心出来る関わりをしていくように話し合っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に丁寧な言葉とかは意識していないが、出来るだけ思いや誇りを大切にするような関わりをし、記録なども所定の場所に保管し必要時に取り出すようにしている。	言葉だけ丁寧なのはすぐ入居者に気持ちが伝わっていないことが、わかっています。方言でもお互いが気持ちよく話し合える言葉が、大切ということを職員にも話している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	何を話しても伝わらない日もあるが、気分のよいときには家の話や友達の話などしながら、今どんなことをやりたいか等聞き出し、それをどうやって実現するかなど一緒に相談して計画している。	本人の思いだけでは中々実現できない希望もあるが、家族や親戚、友達と相談させて頂き、たとえ少しだけでも叶えられるように支援している。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	開設以来これだけは常日頃職員と話し合っている。まず入居者の気持ちや、やりたい思いが優先で職員の業務は入居者に関わるということ意識付けを行ってきている。	難しい時もあるが出来る限りで努力している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	開設時は理美容院を決めて支援していたが、今は本人が在宅時に利用していた理美容室に出かける支援をしている。	口紅をつけたい方やパーマを掛けたい方等、本人の希望通り出来るよう支援している。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備から味見、盛り付け、配膳、食器片付け、洗浄後の食器拭きなどその方の出来る範囲で、手伝っていただきながら実施している。好き嫌いの激しい方には好きなものを聞きながら、食べて頂けるようなものを、提供できるように職員と話し合っ出来る範囲で実施している。	出来る範囲で利用者が楽しく手伝えるように声かけをしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙したい方は現在はいないが、ビールなどはイベント時など飲める方からは飲んでいただけるように準備しているが、常時飲みたいという方はいない。折々に声かけしているが時々飲める事がいいといっている。	普段入らないといっているが、時々「ビールでもどうだの？」と声かけするが、「お祭りなどの行事の時だけで良いよ。」と返事が返ってきている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ、尿取りパットなど使用はしているが自分で交換できる方もあり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできている。	新規入居者などについては、お互いよく相談しあって、良い方法を検討して行きたいと思っている。(排泄への意識はあっても、障害が負荷を掛けて失敗する場合もあるので、その負荷をどう取り除いていくかを、本人を交えて相談検討して行きたい。)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には毎日入浴は可能な状態になっているが、声かけだけでは何日も入りたくない方もあるので入浴表でも予定を組んでいる。(入りたい方は毎日でも入っている。)	畑に行った時や草取りをした時はその後で入浴できるようにしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の管理、花畑の管理、お天気図の記入、カレンダーのめくり、等できることを任せてやってもらっている。	
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くは持っていないが、大部分の方がいくらかのお金を所持しており希望があるときは買い物に同行して相談に乗ったりしている。	お小遣いは家族が来た時に話し合っているが、大体いくらくらい持っているかは職員で、出来る範囲で把握するようにしている。今までに入居者の中でなくなったということは発生していない。しまい損ねたことは何度もあるが職員と一緒に探すことで見つかっている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば外食に出かけたり、散歩や買い物に同行し楽しんでいただいている。	春は山菜取りに出かけ、食卓に彩を添えたり、今はすぐ近くの佐梨川土手に胡桃拾いなどに出かけている。床屋さんや、自宅、お墓参りなど出来る範囲で支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お祭りや、お盆のお墓参りには職員が同行でおまいりに出かけている。家族の都合がつく方は家族と出かけている。公園にお弁当持参で出かけたり計画している。	春には山に木の芽とりにでかけたり、くるみ拾いに出かけたりして楽しんでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字がわからないときは、見本をかいいたり、時には代筆をしたりしている。電話も携帯電話を持っている方も居るがかけたいときにはホームの電話で掛けて話していただいている。		手紙を書き終えたら一緒にポストまで投函に出かけたりしている。携帯電話が時々わからなくなるので職員が考えながら使いかたを伝えている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホーム内の空気の循環や、汚れ、掲示物、観葉植物など雰囲気注意到意し、いつも面会に来ていただいて本当にうれしい事を伝えている。食堂で他の方と一緒に茶を飲んでいただいたり、居室でゆっくり話していただいたり工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員は声かけから見守りにおいても気配りをしながら、拘束しないように努めている。その人一人ひとりに合わせた声かけで、出来るだけ気分が良くなるようにしている。利用者は私達以上に、不安を感じているのだから、出来ないといらいらないで、出来ないところは、さりげなく支援するように職員にも声かけている。		関わりを多くすることで拘束につなげない。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝6時過ぎから夕方6時までには玄関はカギをかけない。風呂場と、薬保管室、洗剤などの薬品保管室以外はカギをかけていない。		日中は鍵は掛けずに、職員が一人ひとりの入居者の居場所を把握できるように努めたり、コールマットがなった時にはモニターに反応し、把握できるように心がけている。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	3階にはモニターをつけて夜間のトイレなどの行動が見守られるようにしている。その他職員がこまめに各階を巡回し確認している		玄関にはセンサーとセンサーマットを取り付けて、コールが聞こえた時には、玄関モニターで確認している。必要時はこっそり後からついたり、声かけている。3階と2階間で連絡が取れるようにインターホンを検討したい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針仕事などは一緒に実施し雑巾や布巾を縫ってもらっている。野菜の刻みや下ごしらえも、ゆっくりなら上手にしてくれるので見守りながらお願いしている。漂白剤などの液体危険物についてはカギをさせていただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事中は必ず職員が各テーブルで一緒に食事をし声かけや見守りをしている。転倒に不安のある方についてはベットからの移動が確認できるようにコールマットを足元に設置し、さりげなく見守りしている。		職員が同じ階に偏らないようにして、楽しく関わられるようにする。外に出たい人がいたら何時ごろ出たくなるのかなど、見守り確認し、その時間には一緒に出かけられるように工夫する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回は消防署の実施する、普通救命講習を受講している。避難訓練は年2回実施している。消火訓練は1回。避難訓練は2回実施予定。		避難訓練、通報訓練、応急手当、など定期的の実施できるように、訓練計画を検討している。消防計画などを含め検討中。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣近所は工場などが多いが、運営推進会議に参加してもらっている近所の方々には、機会ごとに協力をお願いをしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	出来る範囲で見守りしながらかわっていくことが前提だが、予測できない事故もありうることは契約時や家族会などで話し合っている。危ない心配ばかりしていたら、精神的に抑制、抑圧につながるので出来るだけ普通に家にいるときと同じ生活の支援ができるように声かけしながら実施している。		日々色々な行動が出てきている中で、家族、職員でお互いが共用できるように、面会時など良く話し合うようにしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	現在までに数回救急で対応経験があるが、連絡が早く大事には至らず安定している。主治医家族と話し合い、今後のことなども少しずつではあるが家族、職員とも話し合っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を確認し、毎回間違いないように一人ずつ支援している。薬の処方が変わったときなどは様子も確認している。		薬の内容についてあたらしいものはインターネットなど通じて確認職員に連絡している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜類を多く取り入れ手調理している。又水分摂取も注意し声かけしている。可能な範囲で身体も動かしてもらっている。		それでも便秘気味の方は主治医とも相談し穏やかに効く薬なども処方いただいている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現状では声かけすれば出来る方ばかりなので、毎食後声かけし必要な方は入歯磨きなど実施している。		毎食後うがい、歯磨きの声かけ及び見守りなど実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	軟らかく煮たり、薄味にしたり主治医からの指示も考えながら食事づくりをしている。水分は不足しないように食事の時のほかに10:00と3:00にお茶の時間を設けたり、夜間は居室でも飲んでいただくようにペットボトルにお茶を冷まして届けている。トイレに起きた時など夜勤者が声かけでお茶を飲んでもらっている。	気分が優れないことでうまく食べれない時などは主治医と相談して栄養補助ドリンクなども柔軟に対応しながら支援している。毎食どれだけ食べたか健康管理表に記録している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	普段から毎食後うがいの実施をしていただき風邪気味のときなどはイソジン薄め液でうがいしている。インフルエンザは入居者職員が全員予防注射を受け注意している。外部からのお客様にも玄関で消毒していただいたり、風邪気味など体調の悪い時は面会しないしてほしい旨掲示して促している。(職員も家族の健康も含め気配りしている。)	廊下の手すりやトイレの手すり、食堂の椅子の手すり、ベットの柵やポータブルトイレの手すり洗面台などは、開設後からオスバン液やハイポロン薄め液で、毎日利用者と一緒に拭き掃除している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	徒歩15分くらいのところにスーパーがあり、利用者とできるだけ買い物に出かけられるように、あまり買い置きはしていない。入居者が作る畑の新鮮な野菜が食べられる。食器は毎食後、洗浄後食洗器で乾燥し布巾は出来るだけ使用しないようにしている。まな板、布巾はハイポロン薄め液で毎日消毒している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ピロティには職員の車は出来るだけおかないようにして面会者や訪問者が安心して車を駐車できるように心がけている。	駐車場を外部に確保しており、出来るだけ家族やお客様から安心して使用いただけるように工夫している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や観葉植物や手作りの小物など飾り工夫している。玄関は入居者全員の写真で面会者など迎えている。	
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは1つでなく3つ用意しこの場所として使用している。誰もいなくてもそこに出てきてくつろいでいる事も多い。春、秋にはサンルームも利用できる所以利用している方もいる。	サンルームにエアコン検討できたらと思っている。事務室利用の喫茶コーナーなど工夫してみたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にも話し合っ用意しているが、本人が希望した時には同行で自宅に取りに行ったり家族から届けてもらったりして工夫している。		居室に椅子とテーブルを用意している方もいるが足の悪いお年寄りにはお部屋でくつろぐのに良かったので今後必要な方には入居時などの話に加えて行きたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いについては職員全員が敏感になり、入居者間でのトラブルの予防や、外部からの訪問者が不快な思いをしたりしないように気配りしている。排便などで臭いがきつい時は、緑茶をいれることで香ばしい香りが消臭してくれている。各居室とも空気清浄機もあり、気づく範囲で実施している。		とても暑がりの方がいるが今年は冷房の他に扇風機を利用しお部屋の空気を回すことで昨年よりは過ごしやすかったと喜んでくれた。職員も各部屋を覗くたびに、室温と空気の状態を確認している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターを利用するようになり安全に移動が出来るようになってきている。階段を利用したい方も居るので時々職員が同行で階段利用も楽しんでいる。お風呂なども職員が声かけすることで自分でゆっくり出来る方と、少し支えたり洗ったりすることで気持ちよく入浴してもらっている。		エレベーター利用はここに来て知り得た知識なのでわすれてしまうが、階段の利用は子供の頃からなのでいかに安全に利用できるか見守りや声かけをする。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お風呂の場所、トイレの場所、各居室の名前など入居者から書いてもらったりして掲示することで読んでわかることが出来る。(通り過ぎて忘れても通る時はわかることができる。)		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム裏側に畑を設け入居者が担当で野菜づくりを楽しんでいる。出窓や玄関、ピロティーに鉢植えの花を植えてみずやりや花摘みを楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員がグループホームの仕事を楽しみながら生き生きと仕事をしているところ。

・家族が安心して、声かけや相談しやすい環境を作る努力をしているところ。

・運営者の利用者に対する優しい思い、気配り、声かけを実行しているところ。

・出来る範囲で外出の機会を作り、地域の中に溶け込んでいこうとしている姿勢。

・旬のものを多く取り入れ利用者にとって馴染みの惣菜が食卓に並ぶこと。